FORUM Vol.9

大阪府立大学
高等教育開発センターニュース
「フォーラム」

第 9 号

CONTENTS

巻頭言 ---- 2
高等教育開発センター主任　高橋　哲也

FDセミナー（2007年度第2回）報告 ---- 3

授業アンケート報告 ---- 4

高等教育開発センター
2007年度活動報告 ---- 6

編集後記 ---- 8

大阪府立大学
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

巻頭言

●高等教育開発センター主任

高橋哲也

TETSUYA TAKAHASHI

高等教育開発センターの3年間を振り返って

高等教育開発センター（以下、単にセンターと略します）が発足して3年が経ちます。全学のFD活動の核となる組織として総合教育研究機構に設置され、全学委員会である教育改革専門委員会と連携し、さまざまな活動を行ってきました。3年という節目でこれまでの活動を振り返ってみたいと思います。

発足当初の懸案は授業アンケートでした。大学として学生の意見を授業に取り入れていく仕組みがないということは問題だという認識は教育改革専門委員会でも共有されていて、実施までは意外とすんなり進みました。授業アンケートシステムが作られ授業時間を潰して紙のアンケートを配って回収するという手間がなかったという点も大きかったかもしれません。しかし、web で学内からしか回答できないという方法は、低回答率という問題点も引き起こしました。回答期間の延長、中間での自由記述の担当教員への送付といった取組も行ってきましたが回答率は下がっていく一方です。授業アンケート自体は、一定の効果を上げたと思いますが、見直しの時期にさしかかっているのかもしれません。

センター発足前の16年度秋から定期的に開催しているFDセミナーの他、教育改革特別シンポジウムの開催、接続教育に関するアンケート、FDワークショップ、ピア授業参観などが実施されてきましたが、実際に何かを決めていくのは教育改革専門委員会という全学委員会です。この委員会では、議論も活発に行われますが決まったことには各委員が積極的に協力していただいています。研究中心が当り前だった大学でFDというと追加の業務が増えたように思われるかと危惧していたのですが、ここではそういったことを感じることはありませんでした。（各部局の委員は、部局に戻られると大変だったようですが）

今年度センターでは、FDヒアリングという形で各部局のFDの取組について取材させていただきましたが、どの部局もさまざまな教育を良くする取組をされていてこの大学のポテンシャルの高さを感じました。しかし、その取組が教員間に共有されていないということや、FDに対する誤解がまだまだ残っているとも感じました。

このFORUMの創刊号で、FDとは「大阪府立大学では、『大学の教育を良くするための組織的な取り組み』と定義したいと思います。」と書きました。「学科（専攻）・学部（研究科）といった組織でいかに教育を良くするかということを常時考えて、その内容をチェックし、更に改善していく」ことのお手伝いをセンターはしていきたいと思います。

REPORT

FDセミナー（2007年度第2回）報告

今年度第2回目のFDセミナーは、2007年12月14日、絹川正吉先生（前国際基督教大学学長、特色GP実施委員会委員長）を講師としてお招きし、「GPA制度の活用」のテーマで開かれました。

絹川先生は我が国においてGPAがもっとも早くから導入されている国際基督教大学（ICU）において、GPAを活用してどう教育を良くしていくかということに尽力されてきました。今回のセミナーでは制度の理念や実際を、その50年にわたる運用の経験に基づき、具体的な事例を挙げながら詳しく解説されるとともに、本学のGPA制度についても触れられて、質疑応答も活発に行われました。以下、講演内容について紹介します。

1998年の大学審議会答申「21世紀の大学像」に表れた「厳格な成績評価」が、GPA（平均成績評価）制度の導入をもたらしたが、日本の大学教員の多くは、アメリカ輸入のGPA制度について、大学論的忌避感覚を持っているように思われる。「GPA制度は相対評価を前提とするが、大学における評価は、すべからく絶対評価であるべきで、GPA制度は大学になじまない」という批判も、そのような忌避感覚の表現である。しかし、ユニバーサル化した大学において、例えば、学生の学習態度の改善を促すことが、大学の教育活動として重要になってきた。そのような教育活動の手がかりとして、GPA制度が有効性を持っていることは、国際基督教大学の50年にわたる制度運用の経験からも言えることであり、学生はこの制度を用いて自らの学業を自己管理することを学ぶという効果がある。

しかし、GPA制度を実施することが直ちに厳格な成績評価にはならず、両者を結びつけるポイントは、その運用の仕方にある。ICUでは、3学期制による単位制度、科目選択・登録制度、アドバイザー制度、学習支援システムをセットにしてGPA制度を運用しており、履修登録の際に全教員がアドバイザーとなって、学生の履修計画に助言したり、成績不良者への対応や除籍に至る手続きなどGPAに基づいて行われる。単なる成績の数値化にとどまるものではなく、学生の学習意欲を高める動機づけや自己管理の道具として、成績不良者を除籍しないためのケア・システムとして、また、教員に教育の共同性の認識や評価の標準化を促す道具として活用できるよう、大学全体として組織的に取り組むことが最も重要である。

参加者のアンケートも大変好評でした。なお、当日の配布資料や資料映像が高等教育開発センターにありますので、授業等で出席できなかった方は是非ご覧になって下さい。（木舩）

授業アンケート報告

―実施概要と試行的分析ハイライト―

先般実施されました2007年度後期授業アンケートについてご報告いたします。今回は下記の要領で実施されました。

実施方法：原則として学生ポータルを通じてWeb上で実施
※経済学部の一部の科目では紙ベースで実施
対象科目：2007年度後期開講科目
※新カリキュラム（1～3年生）科目は全ての科目が対象。旧カリキュラム（4年生）の科目は各学部（研究科）が指定した科目
回答期間：2007年11月12日（月）～2008年2月15日（金）
※ただし集中講義の科目については別途設定
※期間中に中間結果をポータル上に公開するとともに、自由記述を各科目担当の教員にフィードバックする

次に、全体と部局別の対象科目数・回答（延べ回答者数）の学年別構成比・回答率は表1の通りです。前回同様、表中の学部名は開設部局を表しますので、理学部・人間社会学部にも4年生の該当があります。前回に引き続き3年次配当の全科目も対象となったため、学年別構成比は全体では学年が1＞2＞3の順に多いものの、2年生または3年生が最多の部局もあります。部局別で総合教育研究機構の科目および回答が最も多いのもこれまでと同じです。また、回答率は前回（2007年度前期）は2割台に回復しましたが、今回は11.5%と非常に低調でした。教育改革専門委員会および高等教育開発センターで継続して対策を検討しております。

■ 表1　科目数・回答の学年別構成比・回答率

	科目数	1年生	2年生	3年生	4年生以上	回答率
全体	1,163	48.2	30.6	18.1	3.1	11.5
工	205	14.3	48.4	35.7	1.6	10.2
生命環境	122	32.3	35.0	27.9	4.8	6.6
理	85	16.7	36.7	40.0	6.6	14.0
経済*	109	32.7	42.0	18.1	7.1	7.3
人間社会	225	30.8	41.6	26.2	1.4	7.4
看護	31	38.1	30.8	17.4	13.7	12.9
総リハ	54	24.0	50.0	23.0	3.8	23.0
機構	332	81.3	13.8	4.4	0.5	15.2

※ 単位:%（科目数を除く）
* 学年別構成比・回答率は紙ベース実施科目を除く

さて今回のアンケートでは、回答率を少しでも改善するための一つの方策として、全部局について質問項目を見直し、項目数を減らしましたが、総合教育研究機構では6項目を削減するとともに出席率を問う項目を追加しました。同様の項目はこれまでも機構以外では多くの部局で盛り込まれていましたが、今回はこの出席率と授業の理解度の関連を調べた結果をご報告いたします。図1～図5は、出席率・理解度の項目が含まれている部局における双方の関連を示しています（ただし総合リハビリテーション学部は「90%以上」の回答が圧倒的多数を占めるため省略させていただいています）。

図1　出席率と理解度の関連（理学部）

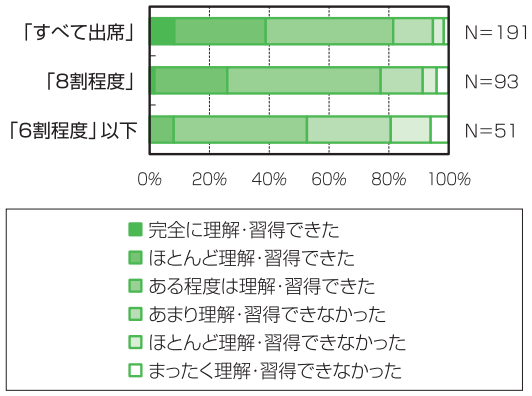


図2　出席率と理解度の関連（経済学部）

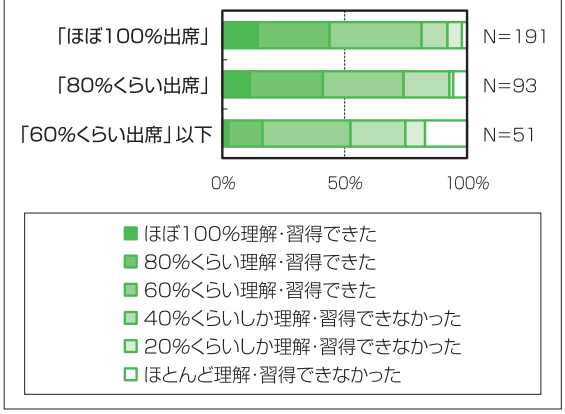


図3　出席率と理解度の関連（人間社会学部）

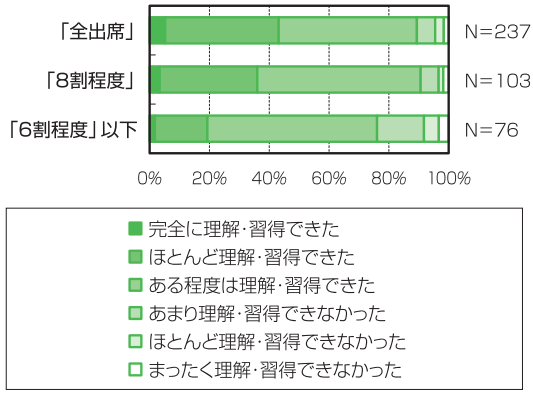
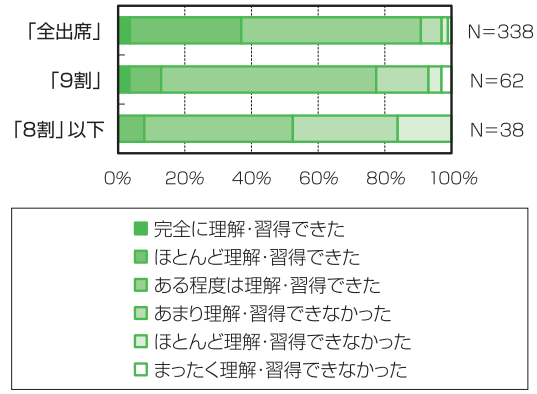
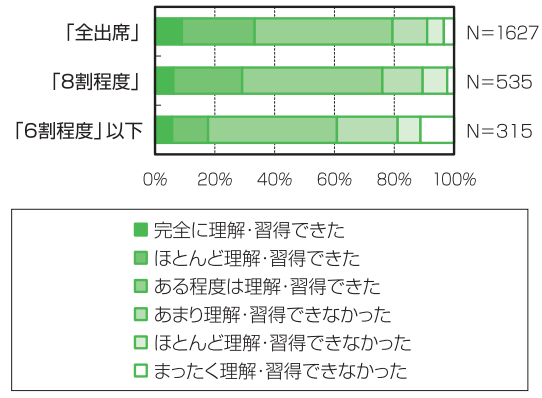


図4　出席率と理解度の関連（看護学部）



選択肢の違いや程度の差はありますが、予想できるようにどの部局でも出席率が高いほど理解度も良いという関係が見てとれます。最近（特に統合・法人化に伴うGPAの導入以降）学生が授業によく出席するようになったという話はあちこちで耳にしますが、やはり授業の理解のためにはきちんと出席する必要があり、逆に全授業回数の1割か2割欠席するだけでも平均的には理解度が下がるということを、改めて印象づけられる結果といえます。　（保田）

図5　出席率と理解度の関連（総合教育研究機構）



高等教育開発センター
2007年度活動報告

セミナー・研修会の企画・実施

◎FDセミナー

FDセミナーを2回開催しました。第1回は、FDの義務化に直面している現在、これにどう取り組むべきかについて、立教学院本部調査役の寺崎昌男先生に講演していただきました。第2回は、今年度開催されたFDワークショップの実施状況などを踏まえ、GPA制度をいかに運用すれば大学教育に役立つのかについて、前国際基督教大学学長の絹川正吉先生に講演していただきました。

さらに今年度は、大学院のFD義務化を受けて、新たに大学院FDセミナーを開催し、大学院教育改革支援プログラムへの申請内容を各研究科に報告していただきました。

◎FDワークショップ

昨年度に引き続き、9月にFDワークショップを開催しました。「GPA制度をどう活用していくか」をテーマに、参加者間による活発な討論とその発表が行われました。

◎新任教員研修

新しく着任された教員に対して、大阪府立大学の理念や教育方針、ならびに教育体制について、周知徹底をはかるための研修会を実施しました。

セミナー・研修会	内　　容	年 月 日
第1回FDセミナー	「FDと大学教職員の専門性をどう考えるか―FDの「義務化」を前にして―」（立教学院本部調査役・寺崎昌男）	2007/6/29
第2回FDセミナー	「GPA制度の活用」（前国際基督教大学長・絹川正吉）	2007/12/14
大学院FDセミナー	大学院教育改革支援プログラム申請内容について（6研究科）	2007/7/31
新任教員研修会	新規着任教員対象の研修会	2007/4/2
FDワークショップ	「GPA制度をどう活用していくか」	2007/9/21

調査の実施

◎授業アンケートの実施と分析

今年度前期開講の授業に関しては2007年6月4日～8月9日に、また後期開講の授業については2007年11月12日～2008年2月15日に、それぞれ全学的な授業アンケートを実施しました。アンケートの結果については、各科目の担当教員のコメントを添えて、ホームページ上で学内限定にて公開します。アンケートの分析結果の概要は、前期分については本誌第8号に、また後期分については本号に掲載しています。また、大学院の授業に関しては、今年度は「大学院の教育に関するアンケート」として実施し、結果を各部局へご報告しております。

◎FDヒアリングの実施

各部局で取り組まれているFD活動に関する情報の共有化を図るため、事前アンケートを基にしたFDヒアリングを実施し、報告書を取りまとめました。

◎近隣国公立大学FD実施状況調査

大阪府立大学におけるFDを更に展開していく指針を模索するため、近隣の国公立大学に対して、教育改善事業の調査を実施しました。本誌第8号に結果報告を掲載しています。

印刷物発行

◎センターニュース発行

昨年度に引き続き、今年度もセンターニュース『FORUM』を3回発行し、学内の全教員に配布したほか、他大学のFD関連センターや大阪府内の高等学校にも送付しました。

◎その他

FDヒアリングの調査結果を報告書としてまとめました。

名　　称	内　　容	発 行 月
「フォーラム」第7号	第1回FDセミナー・大学院FDセミナー報告、「大学院の教育に関するアンケート」について、授業アンケート・教育全般に関するアンケート実施のお知らせ、FDヒアリング経過報告など	2007/10
「フォーラム」第8号	FDワークショップ報告、授業アンケート報告、近隣国公立大学FD実施状況調査報告など	2008/2
「フォーラム」第9号	第2回FDセミナー報告、授業アンケート報告、高等教育開発センター2007年度活動報告など	2008/3
FDヒアリング報告	前期に行なった各学部・総合教育研究機構のFDへの取組みに関するヒアリングの結果報告	2008/3

所員派遣

FD関連のシンポジウム・セミナー・講演会・会議への出席、および学外への講師等の派遣を行いました。

派　遣　先	派 遣 内 容	派遣者	年月日
大阪市立大学　第14回教育改革シンポジウム「大学院重点化時代の学士課程教育システムを考える」	シンポジウム出席	高橋	2007/8/1
日本リメディアル教育学会第3回全国大会・前夜祭（西南学院大学・大丸別荘）	前夜祭講演（講演題目:「入学前・初年次・リメディアル教育の実施に際し、学内全体を巻き込む知恵」）（高橋） シンポジウム指定討論（講演題目:「物理分野における基礎学力評価とリメディアル教育」）（星野）	高橋、星野	2007/8/30-9/1
関西地区FD連絡協議会（京都大学・吉田キャンパス）	会議出席	山口、高橋	2007/9/3
広島大学　第35回研究員集会「知識基盤社会における高等教育システムの新たな展開」	講演会出席	高橋	2007/11/16-17
大学教育学会　2007年度課題研究集会（龍谷大学・深草学舎）	講演会出席	奥野、佐藤、山口、高橋、木舩、保田、星野、高根、谷口	2007/12/1-2
第2回大阪府立大学看護学部FDセミナー	講演（講演題目:「GPA制度の理解を深める」）	高橋	2007/12/25
日本高等教育学会　学会創立10周年記念シンポジウム「大学教育研究をどう発展させるか」（学術総合センター内　一橋記念講堂）	講演会出席	高橋	2008/1/5
関西地区FD連絡協議会「授業評価ワークショップ」（立命館大学・衣笠キャンパス）	ワークショップ参加	保田	2008/1/12
研修会「学生の成績評価におけるGPAの役割について」（大阪市立大学　文学研究科）	講演（講演題目:「大阪府立大のGPA制度」）	高橋	2008/1/25
(財)大学コンソーシアム京都　第13回FDフォーラム「大学教育と社会　―FD義務化を控えて―」（立命館大学・衣笠キャンパス）	講演会出席	山口、高橋	2008/3/8-9
特色GPシンポジウム「成績評価の厳格化とその支援システム」（同志社大学・今出川キャンパス）	シンポジウム出席	保田、星野	2008/3/10
京都大学　第14回大学教育研究フォーラム	講演会出席	山口、木舩、保田、高根、谷口	2008/3/26-27

（星野）

編集後記

2005年の統合・法人化とともに誕生した高等教育開発センターも設置後3年を経過しました。その間、大学を取り巻く状況はますます厳しくなっておりますが、センターの活動が府大の教育改善に寄与し、この激動の時代を生き残るために貢献できればと祈念しております。

本号の記事にもありますが、昨年12月のFDセミナーでは絹川先生にGPAについてご講演をいただき、その中で先生は、運用こそがGPA制度の活用にとって重要であることを力説しておられました。センターでも、GPA導入後の成績評価の分析により、本学GPA制度の在り方の検討を行っております。これまでのところ、成績評価の分布やその経時的推移も部局によってかなり異なることなどがわかってきています。GPAに関する議論を教育にとってより有意義で厳正な成績評価に結実させるための基礎的知見を提供できるよう努めてまいりたいと思います。

（保田）

大阪府立大学　高等教育開発センター
センターニュース『FORUM』

平成20年3月24日発行

発行者　公立大学法人　大阪府立大学
総合教育研究機構　高等教育開発センター
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
http://www.fd.las.osakafu-u.ac.jp/

印刷所　くすの木印刷
〒586-0081 大阪府河内長野市緑ヶ丘北町25-21

〈編集委員〉　木舩 弘一　高根 雅啓　高橋 哲也（主任）　谷口 栄一　星野 聡孝　保田 卓（副主任）　藤澤 圭子・本吉 紀子（事務担当）

この冊子は1500冊作成し、1冊あたり48円です。